



題字 井口 文章  
再刊 第477号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2025

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：第六十回卒業式を挙行  
合唱祭指揮者・伴奏者特集②  
二面：今年は「大運動会」も？卒業式レポート！  
在校生で校内を飾り付け

# ぼくらの青春は永遠に 60回生 涙の卒業式挙行

## 錦城最後の登校日 3年間の思い出がよみがえる

3月18日(火)、第一体育館にて第六十回卒業式が行われ、60回生471名が錦城高校を卒業した。今号では、卒業式の様子や式後の卒業生の声をお届けする。

### 校長式辞

「季節は巡り、今年もまた旅立ちの時がやってきました。校長先生は、この季節のあいさつで始まった。はじめに1年次に実施された千葉での宿泊行事について触れ、校長先生は「季節は巡り、今年もまた旅立ちの時がやってきました。」と語りかけた。



クラスで撮る最後の集合写真。担任の先生には花束をプレゼント！

## 1年間の放課後ゼミの集大成 62回生 探究ゼミ発表開催

2月26日(水)のLHRで、62回生ゼミ探究生による探究発表が行われた。

この探究ゼミでは、放課後や空いた時間に田中耕作先生の指導の下、有志が集まった62回生12人がそれぞれのテーマを設定して探究を続けてきた。今回の発表では、12名が1年13クラスをそれぞれ



実際の発表で使用したスライド

分担し、各教室で探究成果を報告した。今回は「他者を依存信頼させる方法」をテーマに探究活動を行った吉村優花さん(1E)は、探究ゼミに参加したきっかけについて「もともと興味、関心のあるものをさらに深く知りたいと思い参加しました」と話す。「プレゼンで使うための資料の収集や自身の意見、考察を添えた論文の作成などに時間がかかりました。プレゼン作成では、聞き手

に、表現の工夫を入れたい」と活動振り返る。発表では生徒に話し合いや質疑応答の時間をとるなどの発表内容の工夫も行った吉村さん。今後は「中高生のいじめ問題」に目を向け、複雑化している人間関係をよりよく生かす方法について探究したいという。「探究活動での経験を自分の人間関係や将来の進路に生かしていきたいです。」と意気込みを語った。(燕)



クラス代表に卒業証書が授与される

### 答辞

コロナ禍で始まった高校生活から、2年生に進級して思い描いていた青春が3年ぶりに叶ったことに、計り知れない喜びを感じました。そう答辞で話すのは、元生徒会長で卒業生代表の山田拓仁さん(3E)。入学してからこれまで、多くの人に支えられて自分は今ここに立っていると感じ、「どんな時も周りに感謝を忘れず、支えあひながら生きていきたいと思います」と力強く語る。そして最後に、「強い意志と輝く心」を持つ同輩たちへ向けて、歌詞を引用して会場に笑みをあふれさせた。「60回生、また会おう。そして輝くウルトラソウル！」。

### 学年主任の話

学年主任の太田剛先生は、山田さんの話を受けて「EYES

## 華やかに舞う

### ダンス部ステージ公演

3月12日(水)と15日(土)、ダンス部によるSpring Stage「It's Me」が開催された。公演では、様々なジャンルのダンスをチームごとに部員たちが踊った。記者が観た12日の公演では「スーパーマリオ」が注目を集めた。ダンス部の活躍を祝う。



キラのあるダンスで観客を魅了する

「観客を惹きつけた。公演を観た永井智汎さん(1C)は、「見ていて引き込まれる公演でした。カッコいいダンスはもちろんマリオで統一されたストーリーもとても楽しかったです！」と話した。(燕)

## みんなで掴み取った最優秀賞

### 合唱祭セレクション第2弾！ 2年伴奏者賞・指揮者賞

「みんなが手伝ってくれたから獲得できました」2年の部で指揮者賞を獲得した永田愛珠さん(2H)は「シンプルにうれしい。努力が報われました」と受賞の喜びを語った。永田さんは指揮者の経験はあまりなく、Youtubeを見て勉強したという。劇や振付やハンズクラブなど様々なギミックを取り入れていた2Hの作品だが「みんなが積極的に協力してくれたから」作り上げるのにそこまで苦労はなかったという。「実行委員含めみんなが手伝ってくれたから獲得出来ました」とクラスのみんなへ感謝を伝えた。(仏)



「努力が報われました」

ハプニングにも負けず伴奏者賞に輝く 2年の部で伴奏者賞を受賞したのは小幡愛珠さん(2A)。「他の皆も上手かったから取れないと思っていたけど、取れて嬉しかった」と笑顔を見せた。合唱祭の練習が始まる一週間前に楽譜が変更になるというハプニングがあったと話す小幡さん。昨年の合唱祭ではクラス伴奏者の座を争って負けてしまったそうで、今年是最優秀賞では絶対に負けたくないと、練習に注いだ熱意を語った。結婚式をテーマとした劇や衣装については「クラスメイトの提案。本当にやるのかなと思ったけど、仲良しで面白かった」と話す。クラスメイトへは、皆が声を出してくれたから自分もピアノで弾きたいように弾けたから、皆のおかげでもあると感謝を述べ、「皆が素直に練習してくれて声も出してくれたから取れた銀賞だと思います。皆大好きです、結婚して下さい！」とメッセージを送った。(泰)



ウェディングドレスを身にまとって演奏

## 後輩たちへのメッセージ

「仲間といる時間を大切に」 西村健吾さん(3B)は無事卒業することができてうれしく、笑顔で話す。ワンダフルオーケストラという西村さんは錦城での思い出として夏に話した。



部活の友人と記念写真！

冬合宿を挙げる。後輩たちに向けて「趣味、遊び、勉強など何事も努力できる場所はたくさんある。楽しんで、皆さんのお

### むらさき草

春、出会いの季節。新学期最大の悩みは、やはり対人関係だろう。「友達作れるかな」「仲いい子とクラス離れちゃった」という不安は、幼稚園の頃から変わらず、今年もやってくる▼「特技・人間観察」の下陰キヤたる私が毎春校内を眺めていると、ときどき、無理して他人に話を合わせる生徒を発見する。相手の顔色を伺って、必ず後出しで「ああ、それ私も好き！」と言ってみたり、終始あいまいな笑顔を保つてみたり。朗らかな外装を装いながら、その水面下では常に相手の地雷を警戒して交わされる「世間話」が、どうにも苦手だ▼何に反応し、どんな風に世界を区切っているのか。人の性格は、ソニーの提示したような、世界の「分節化」に似た側面がある▼絶妙に噛み合わない意見、会話の途中で気づく違和感。そういっただけなのに、「分節化の仕方」が違うのだと思えば納得できる。こちらが世界を奇数で区切っている一方、相手は素数で区切っている可能性だってある。そう考えれば、必要以上にこだわって振り回される必要はないかもしれない▼高1の春、周囲の目をあまり気にしてはいた私には、実姉にこんなことを言われた。「どんな発言をしようか、必ず2割の人は貴方の味方になる」▼働くアリは巣に2割、さばるアリも2割いるという「働きアリの法則」は、対人関係でも適用されるらしい。どんなに頑張っても2割の人には嫌われてしまうし、我が道を歩んだとしても、2割の人には支持を得られるそうだ▼EYESキャリアガイド編集部HP 2022年10月27日コラム参照、2025年3月21日▼「どんな状況でも仲間がいるんだ」と思えた瞬間から、自分の意見も言えるようになった。そして、クラスメイトとも一層仲が深まった気がする。もしかしら、人に気に入られようとして作った自分の虚像が、かえって人を遠ざけていたのかもしれない▼春、出会いの季節。今年の新学期も自分のペースで、のんびりまったり過ごしていくつもりである。(普)

# 笑顔で駆け抜けた錦城ライフ

## 60回生卒業祝会盛り上がる

3月14日(金)に60回生の卒業を祝う会が開催され、3年生が錦城生活最後の行事を楽しんだ。裏面では、会の様子をお届けする。(編集部共同取材)

60回生の卒業を祝う会は、3年生の進路内定者で主に構成された卒業を祝う会実行委員会が企画・準備から当日の運営・進行まで全て自分たちで行った。今年は宝探し、運動会、未成年の主張の三部構成。午前の企画では、クラスごとにポイントを集めて総合優勝を目指した。



各々息の合った走りで激戦を繰り広げる

### クラスの絆で担任を救い出せ

最初に行われたのは、学校全てを会場にした宝探しゲーム「俺たちの『担任』を見つけて出せ」だ。校長先生によって誘拐された担任たちを救うため生徒は敷地内を奔走し、謎が解けた時にはクラス全員から歓声が上がる光景も見られた。

### 借り物探しに校庭を奔走

校庭に場所を移し、前生徒会長の山田拓仁さん(3E)の開会宣言で幕を開けた大運動会。借り物競争がリレー形式で行われた。お題には「カラーコーン二車いす」「A型で左利きの人、定番の『好きな人』も。男子生徒が女子生徒を背負って走った場面もあり、盛大な盛り上がりを見せた。第一試合では3Eが、第二試合では3Jが1位を飾った。

### 各部活がしのぎを削る

次は部活対抗リレー。各部活が工夫したバトンや衣装で競った。Aレースは吹奏楽部が鈴の音を響かせ、軽音楽部がギターを持って走るなど賑やかなレースで1位に輝いたのは、出席簿をバトンとした先生チームであった。続くBレースは陸上部の俊足や剣道部の竹刀のリーチが光る中、華麗な投球によるバトンパスでハンドボール部が



個性豊かなチームが競い合った

1位を勝ち取った。Cレースでは、馬のお面を被った弓道部や、ピンポン玉を運ぶ卓球部などのなかで、流石の脚力を見せたのがワンドーフトオリがバックを背負い、圧巻の1位を勝ち取った。迎えたDレースでは、男子運動部5チームが接戦を繰り広げた。スパイクを持ったサッカー部が本気を出し、開始から先頭をキープ。陸上競技部、野球部が追い上げを見せるも、そのままサッカー部が1位でゴールテープを切った。

## 感謝を込めて最後の贈り物を 生徒会とHR委員でこだわった飾り付け

入口からお祝いの気持ちを

「僕だけで完成するのではなく、在校生の多くの方に協力して貰いたい」と思いました」と話すのは、今年度の装飾を計画、担当した生徒会副会長の神田陸翔さん(1E)だ。神田さんは、例年作成しているお花紙の装飾に加え、これまでになかった風船での飾り付けを提案した。廊下だけでなく、1



一つ一つ、心を込めて飾りつけ

階の中央階段には、赤や金の風船で作られたアーチも設置され、校舎がより明るく、華やかに彩られている。神田さんは、自身の思い描くイメージを細部までHR委員に伝えるなど、当日の不備が無いように万全の準備を重ねて来た。

「60回生の先輩たちの助けがなければ、この1年間を無事に終えられませんでした。3年生が喜ぶように準備から頑張ってきました」と神田さん

### 華やかにすることを意識

1年生は黒板アートを、2年生はみんなで作った花を下駄箱に貼る作業を担当した。実際に作業をしていた恩田紅亜さん(2E)は、「先輩方が最後に気持ちよく下駄箱を開けられるように、華やかにすることを意識しました」と工夫を教えてください。(普・瑞)

## 黒板アートで卒業をお祝い



1年生が作成を担当した卒業生に向けた黒板アート。クラスごとに個性豊かな作品となっており、卒業を彩る最高のプレゼントとなった。(泉)

### 3年間の思いをぶちまける

昼食は校内思い思いの場所となり、午後から行われたのは優勝クラスの表彰と「未成年の主張」だった。総合優勝を勝ち取ったのは3J。「威風堂々」がリコーダーで奏でられるなかでの表彰となった。「未成年の主張」では、弓道部副部長の山田さんが部員に伝える本音、太田剛先生に伝える愛の言葉と花束、錦城高校での3年間を振り返る漫才や、将来の幸せな家庭を誓い合ったカップルなど、様々な思いが語られた。最後には錦城高校での生活を振り返る映像を送った。

## 素直な興味を追い求めて 2年探求 最終発表会行われる

### 探究の成果をみんなの前で発表

2月26日、3月5日の6限LHRにて、2年生が各クラスで探究の最終発表を行った。2年生は1学期からインスパイアハイを使ってそれぞれ問いを立て、探究を続けてきた。探究のテーマは『第六感はあるのか?』や『なぜ、計算ミスをするのか?』『どうしたら大谷翔平を巨人に加入させられるのか?』などといった多様なテーマがあり、発表はグループに分かれて一人4分の成果発表と、質疑応答の流れで行われた。宮坂彩花さん(2D)は「自分自身じゃ思いつかないような問いを立てている人を見ることが出来て良かったです」と最終発表を振り返った。



グループでみんなの発表を聞き合った

担当の後藤知子先生は、1年生ではチーム探究をメインに取り組んできたため、今年度は個人探究に取り組んだと振り返る。個人探究に取り組むにあたって、自分自身の問いに対する探究のプロセスを伝えたいと思い、インスパイアハイを導入したそうだ。



### 「素直に探究出来ていて感心しました」

1学期は外に目を向けることを目的に、インスパイアハイにある様々なコンテンツに触れる時間を取ったという。ただ、ネット環境等でうまくいかなかったそうで、その点は反省だという。2学期からは何でも良いというテーマのもと探究を行った。なんでも良いという難しさがある中で、後藤先生は「探究は繰り返してなんぼの側面もあるので、来年度以降に今回の失敗を活かしてもらおうという意味でもとりえずやってみようという感じだ」と語った。そんな中でも、みんな素直に探究出来ていて感心したと振り返る後藤先生。全員の探究に目を通したそうで、後藤先生は発想が面白いと思ったそうだ。

### 「考えることを止めないで」

探究に対して前向きに取り組める疑問を立てるのも勉強だと語る後藤先生。後藤先生は答えがある勉強とない勉強は同時じゃなきゃいけないということで、考えることを止めないでほしいと考えているそうだ。「ふと思った事を少し形にする時間はみんなのプラスになる時間だと思っています。なので、限られた時間の中でも頑張してほしいです」と2年生にメッセージを送った。(蘭)

## 政治を自分事として考える 小平市長選で「子ども選挙」準備

### 小平市長選で「子ども選挙」準備

4月6日実施の小平市長選挙にむけて、子どもも模擬選挙を体験する企画「こども選挙」が計画されている。小平市内の元PTA会長達が発起人となり、2月16日(日)に小平市中央公民館工作室にてこども選挙委員会発足式が行われた。

60回生学年主任の太田剛先生は卒業を振り返って一言「楽しかったです」と語り、続けて「60回生のみんながすべてをつくりあげたと思うと感動の一言でした」と話している。特に印象に残ったことは、運動会の運営が時間通りだったことだと言いつつ、「大人が企画してもずれちゃうと思うので、盛り上がりや準備を自分たちで100%やり切ったことがすごくいいなと思いました」と話す。久しぶりに再会したクラスメイトと最後に良い思い出を作れた様子だった。



候補者への質問内容をみんなで考える

今年度も錦城高校新聞をご愛読いただきありがとうございました! 来年度も皆さんに楽しんでもらえる新聞を製作するために、新入部員の力が重要です! 興味がある人は、7階生徒会室まで!

生徒会 2.10~3.24

合唱祭実行委員会

3月10日

体育学芸委員会

3月24日